



2025 夏休みおすすめ本 中学生

『被爆者 正 60 年目のことば・続 70 年目の出会い』

会田 法行／写真・文 ポプラ社 319ア

原爆投下から 60 年の 2005 年、この本は 6 人の被爆者たちのことばで綴られた。^{つつ}2015 年、被爆者達は再び「原爆」を語った。亡くなった方もおり、時の流れを否応なく思い知らされる。戦後 80 年たった今、被爆者の言葉を直接聞ける時間はもうあまりない。日本は世界唯一の「戦争被爆国」。彼らの言葉に、あなたは何を感じるだろうか？

『ナマケモノは、なぜ怠けるのか？ 生き物の個性と進化のふしぎ』

稲垣 ^{ひでひろ}栄洋／著 筑摩書房 YN467イ

ある日、牛乳配達をしていた僕は一匹のノラ猫に出会う。僕はこの猫を「キタカル」と命名し、「キタカル日誌」を書くことに。はじめは怖がって逃げていたキタカルも、^{かつおろし}鯉節で心を開き、僕の顔を見ただけで寄ってくるようになった。この猫との出会いは僕の人生を変えることに……。作中のいせひでこのスケッチも素敵な 1 冊。

『おてらおやつクラブ物語 子どもの貧困のない社会をめざして』

井出 留美／著 旬報社 611.3イ

今や全国津々浦々にあるコンビニ。^{つつらうら}おどろくことに「お寺」はコンビニよりたくさんある。今、その「お寺にあるもの」と「社会にないもの」を結び付けて、社会を変え、貧困をなくそうとしているのが「おてらおやつクラブ」。既存の組織・人・モノをつなぎ直して機能し始めた、まさにお寺は「現代社会のインフラ」。その方法とは？

『白線以外、踏んだらアウト』

田丸 ^{まさとも}雅智／著 光文社 Fタマ

みなさんもきっと聞いたことのある、ちょっとしたおまじないや言い伝えがテーマの物語です。タイトルのおはなしは、道路の白線の上を歩いて暮らす人々の世界をえがいています。どのおはなしも、その結末と不思議な世界観に引き込まれるでしょう。中学生の皆さんにも読みやすい全 10 作のショートストーリーです。

『走れ! T 校バスケット部 1』

松崎 洋／著 彩雲出版 YF マツ 1

いじめによりバスケの強豪校を辞め、失意の中、一度はバスケをあきらめた陽一は、新しい高校で、素晴らしい出会いに恵まれて、再びバスケに打ち込み始めた。そして、個性豊かな仲間たちと共に成長し、ついに因縁の相手と対戦することに！読み終えた後、とてもスカッと爽快な気分になる 1 冊で、映画化もされた青春スポーツ小説の秀作。シリーズ全 10 巻あります。

『神さまの貨物』

ジャン=クロード・グランバール／著 河野 万里子／訳 ポプラ社 953.7グ

むかしむかし、大きな森に貧しい木こりの夫婦が住んでいた。厳しい寒さと飢えが広がっていたが、おかみさんは「子どもを授けてください」と祈り続けた。そんなある日、森を走りぬける貨物列車の小窓から、雪のなかに赤ん坊が投げられた…。望みはかなえられたのに、どうすればいいのかわからない。どうやってこの子を育てたらいいというの？



小川町立図書館